

大分県

- ①イス
- ②ベンチ
- ③棚
- ④積木BOX

【概要・アピールポイント】

- ・企画、デザイン、設計、運営については委託先の県内一級建築士事務所が行った。
- ・製材、製作、運搬、設置については協力事業者の県内製材業者が行った。
- ・企画、製作、広報については県内工業高校の生徒が加わった。
- ・SDGsを意識し、余った端材は積木とすることで有効活用した。
- ・木材利用推進月間（10月）に合わせて県内12箇所の県立施設で展示を行った。

■ 資材提供のきっかけ

大分県産材をPRする機会として、ビレッジプラザに資材提供することとした。

■ 提供した木材の概要

- ・スギ

■ 用途

BOX190個に加工し、組み合わせることで下記のとおり組立家具を製作した。

- ①イス（12台）、②ベンチ（5台）、③棚（27台）
- 余った端材については有効活用を図るため積木を製作した。
- ④積木BOX（30個）



■ 用途決定までのプロセス

- ・レガシー材を活用した製作品の設計、製作、納入業務について県ホームページ上で公募（令和4年4月28日～令和4年5月20日）

■ 完成/使用開始時期

2022年9月

■ 製作・使用したものの設置・建設場所や利用者など

- （1）るるパーク、（2）農林水産研究指導センター水産研究部、（3）大分県立農業高等学校、（4）大分県立別府コンベンションセンター、（5）大分県立武道スポーツセンター、（6）大分県立庄内屋内競技場、（7）大分県身体障害者福祉センター、（8）大分県身体障害者更生相談所、（9）大分県立大分工業高等学校、（10）大分県立安心院高等学校、（11）大分県立日田林工高等学校、（12）大分県庁 計12箇所に配置

■ 完成まで・完成後のエピソード

- ・レガシー材の再活用にあたっては、県民が身近に感じていただけるもの、設置する場の環境に柔軟に対応して長く使い続けられるものとするため、BOXと板材を必要に応じて組み合わせることができる組立家具とした。
- ・SDGsの観点から、余った端材は「積木セット」にすることで、レガシー材を使い切ることを目指した。
- ・製作にあたっては、次世代を担う大分県内の高校生と協同することで、技術の伝承と木に親しむ心を育むことに取り組んだ。

問合せ先

農林水産部 林産振興室 木材振興流通対策班

電話：097-506-3833